

## 国立大学図書館の現状と課題

東京大学附属図書館事務部長

大山 努

### 1. 国立大学図書館の現状 ～学術情報基盤実態調査から見えてくる課題～

- ・電子ジャーナルをはじめとするコンテンツ整備 <蔵書>
- ・自学自習を支える環境整備 <場>
- ・職員の育成、キャリア・パス、専門性確保 <人材>
- ・オープンサイエンスへの対応<新たな役割>

### 2. 国立大学図書館の目指すもの ～国立大学図書館協会のビジョンと活動～

- ・国立大学図書館協会の概要
- ・国立大学図書館協会ビジョン 2025 (2021年6月)
  - ・3つの重点領域： 知の共有、知の創出、知の媒介
- ・大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議
  - ・大学図書館コンソーシアム連合 (JUSTICE)
  - ・これからの学術情報システム構築検討委員会
  - ・オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

### 3. 国立大学図書館の役割 ～大学・国の方針との関係を中心に～

- ・教育基本法、学校教育法：大学の機能
- ・国立大学法人法：中期目標と中期計画
  - ・中期目標・中期計画の具体例：「図書館」はどう書き込まれているか
- ・大学のビジョン、戦略
- ・国の政策動向
  - ・文部科学省：中央教育審議会、科学技術・学術審議会 情報委員会  
「ジャーナル問題検討部会」  
「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」
  - ・内閣府：総合科学技術・イノベーション会議 (CSTI)

### 4. 電子ジャーナルをめぐる問題 <蔵書>の課題

- ・国立大学図書館協会のプレスリリース (2018年1月)
- ・価格上昇の推移、値上がり要因、ビッグディール
- ・電子ジャーナル経費の実際：圧迫される図書購入費
- ・海外の動向

- ・ OA 出版 (SCOAP3、Projekt DEAL、PlanS)
- ・ OA2020：購読モデルから OA 出版モデルへの移行
- ・ 我が国の対応
  - ・ JUSTICE：OA2020 ロードマップ公表 (2019 年 3 月)
  - ・ 文部科学省：ジャーナル問題に関する検討会 (2014 年 8 月)、ジャーナル問題検討部会 (2021 年 2 月)
  - ・ 日本学会会議：学術フォーラム、提言 (2020 年 9 月)
  - ・ 転換契約の導入状況

## 5. 学生の自学自習のための支援 <場>の課題

- ・ アクティブ・ラーニング・スペース (ラーニング・コモンズ) の整備状況
- ・ 文部科学省：「学修環境充実のための学術情報基盤の整備について (審議まとめ)」 (2013 年 8 月)
- ・ 状況変化 (ポストコロナ、光熱費高騰) への対応

## 6. オープンサイエンス 新たな課題

- ・ 内閣府：「我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について」 (2015 年 3 月)
- ・ 文部科学省：「学術情報のオープン化の推進について (審議まとめ)」 (2016 年 2 月)
- ・ オープンサイエンスに関する動向
- ・ 大学図書館とオープンサイエンス
  - ・ 国立大学図書館協会：プレスリリース (2019 年 3 月)、機関リポジトリの再定義 (2019 年 5 月)、研究集会 (2019 年 6 月)、行動計画 (2019 年 12 月)
  - ・ 国立情報学研究所：研究データ基盤の整備、教材の作成、AI 等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業

## 7. 人材の確保と育成 <人材>の課題

- ・ 採用とキャリア・パスの現状と課題
- ・ 職員数、採用数の推移：規模の縮小、業務委託の増加
- ・ 職員像の変化：何が求められて、どのように働くか

## 8. おわりに